

令和6年度 第1回生駒市障がい者地域自立支援協議会 会議録

時間：令和6年8月5日（月）

午後2時から

場所：生駒市コミュニティセンター

404会議室

1. 開会

2. あいさつ

事務局：（あいさつ）

（会議の公開について説明、傍聴者の確認）

（会議の録音の許可のお願い）

（手話通訳者・要約筆記者の入室許可のお願い）

（発言の際の注意事項について説明）

（委員紹介、事務局出席者紹介）

（資料の確認）

（福祉部長あいさつ）

3. 案件

（議事の進行は神澤会長）

- （1）生駒市の障がい福祉の動向について、令和5年度生活支援センター概況報告について、令和5年度の各部会活動報告について

事務局：（資料2～7について説明）

資料説明終了後、質疑応答

浅井委員：資料3の47ページ、相談支援の傾向と課題について、端的に的確な分析をされていると思います。相談支援専門員の更なる充足その他の支援体制の必要性についてや、多種多様な障がいの中で相談内容が複雑化していくという課題がある中で、前年度から始まった重層的支援はこれから絶対に必要になってくる取組だと思いますが、重層的な支援体制になるのはなかなか時間がかかるのかなと思います。

昨年度計画策定にあたって、市でアンケート調査もやっていただいておりますが、福祉の相談の窓口になる支援センターでの今後の色々な問題に特化して、相談支援事業所に対してのアンケート調査をしていただけたらと思います。職員が思っている心理的な負担や大変な業務をこなす支援センターの実態調査をして、どういう切り口で支援センターを支えていけるのか考えていかなければならないと感じています。大阪市で相談支援センターに特化してアンケート調査をしていて、問題に踏み込んでいくには良い切り口になるのかなと思ったりしました。

もう一つ、重層的支援について気になっているのが、家族の問題というのが複合的に影響していたりするので、お互いの取組はきちんと連携しておかないといけない

と思うのですが、言うは易しで簡単ではありません。今は、電話連絡や定期的な会議などを行われていると思いますが、例えば高齢の方も障がいの方も、障がいでも身体も精神も知的など種別に関わらず、相談員が集まれる場所があって、そこで仕事もできるような感じといえばいいのか、電話などの連絡ではなく、常時集まれるような場所があれば自然と会話も弾み、コミュニケーションも円滑になるのではないかと思います。そんな突拍子もない話で恐縮ですが、重層的支援をしていくには共通の空間を作っていくということも大切なことではないかと思います。思いつきのように聞こえるかもしれませんが、これは結構大事なことだと思うので、意見させてもらいました。

事務局：ご意見ありがとうございました。

まず、1点目の支援センターの件ですけれども、先ほど報告がありましたように、担当者会は定期的に行っている状況です。そういった場でまず情報共有や悩み、課題の共有はできるのかなと思っております。大阪市の方でアンケート調査をした事例については、拝見させていただいて、参考にしたいと思います。まずは、担当者会が情報共有の場になればよいかなと考えております。

2点目の重層的支援のお話についてですが、おっしゃる通り分野をまたがって支援者が共通に集まる場があれば、一度に情報共有できる状況になるので、理想だなと思うところではあります。今、市役所内部にも月に1度それぞれの分野に関わる担当者が集まって情報共有する場がありますが、あくまでも市役所内部だけで、先ほどの事業所の支援者の方と情報共有をする場はできておりませんので、今後どうするかを考えていかなければいけないと思います。例えば、障がい分野であれば、我々市職員と支援センターの職員が情報共有をして、月1回の市役所の会議に提案等をするというのも1つの方法かと思います。ご意見いただいたばかりですので、今後については我々だけではなかなか決められない話ですので、検討していきたいと思っています。

（2）第6期生駒市障がい者福祉計画の評価について

事務局：（資料8について説明）

説明終了後、質疑応答。

辻中委員：資料8の1ページの居宅介護についてですが、市内で新たに4か所増えているということで報告がありましたが、利用者の大きな変動はないということで、4か所も増えたことによって利用者のとりあいのようなことにはならないのでしょうか。

事務局：市内に事業所が4か所増えているものの、そもそもの担い手が充足しているという訳ではなく、ご本人やご家族が希望される日の調整が難しい場合もあり、実際のところ、とりあうというところまではなく、常に居宅介護の事業所のスタッフの稼働を確認しながらサービスの調整に動いているのが実情かなと思います。

浅井委員：資料8の3ページについて、短期入所は非常にニーズも高いところで、まだ私どもも十分ではないところもあると思い、責任を感じているところではあります。私たちが建てようと思っているグループホームの話です。今、福祉ホームやグループホームにも短期入所はあるのですが、短期入所の方が入ってこられると、他の入居者の人に影響もあります。例えば、夜中に勝手にドアを開けて入ってしまったたり、相性の問題などもある上、男性の場合は稼働率が150%くらいになってきてしまい、どうしても断らないといけないようなケースが出てきてしまいます。できれば、居住とセットになっているのではなく、居住されている方には影響を与えず短期入所のニーズにだけ応えられる短期入所棟のようなものを考えております。ショートステイやミドルステイやロングステイという感じでそれぞれのニーズに合わせた形ができればと、私たちの方でもそういった必要があるのかなと職員が協議したりしているところです。

事務局：ありがとうございます。また開設の詳しいスケジュールなどわかれば教えていただければと思います。

(3) 令和5年度生駒市福祉センター指定管理事業の評価について

事務局：(資料9について説明)

説明後、質疑応答。

(質疑応答なし)

(4) 令和6年度生駒市の障がい者福祉の取り組みについて

事務局：(資料10について説明)

説明後、質疑応答。

(質疑応答なし)

4. その他

(特になし)

5. 閉会

(閉会)

事務局：神澤会長ありがとうございました。委員の皆様方におかれましては、お忙しい中、貴重なお意見をいただきまして、感謝申し上げます。今年度、開催を予定している本協議会につきましては、今回の1回になります。

それでは、以上をもちまして、令和6年度生駒市障がい者地域自立支援協議会を閉会させていただきます。長時間にわたり、どうもありがとうございました。

以上